



## 君のその正しいを行政で実現しよう！

行政評価局調査官(農林水産、防衛担当)  
合田 大作 GODA DAISAKU

行政管理  
行政評価  
統計

**Q** 総務省への入省を志した  
きっかけを教えてください。

お金という価値判断ではなく、純粋に社会の役に立ちたいとの思いで、公務員を受験しました。当時、いくつかの省庁を訪問しましたが、自分とそれほど変わらない年齢ながらも先輩方のイキイキとした総務省の仕事の説明ぶりに惹かれました。かつて某刑事ドラマで「正しいことをしたければ偉くなれ」というセリフが話題になりましたが、この役所は、きっと(偉くならなくても)老若男女問わず、普通に自分が正しいと思ったことを行政で実現できる役所だと信じて入省を決めました。今でもその判断は間違っていなかったと思っています。

**Q** これまでで、もっとも印象に残った  
業務を教えてください。

通常、役所に入ると、自分の所管行政のことしか考えられません。しかし、当省の場合、総務省にいながら他省庁の業務を理解し、現状の仕組みのままでの業務のやり方として最適なのかなど、関係省庁の職員とも議論を重ねながら、改善点を考えることができます。その点、私の場合、過去、農林水産行政に関わる機会が多く、その中でも印象に残った業務の一つ挙げるのなら、補佐時代に担当した「森林の管理活用」の取りまとめで調整が難航していた時に、相手の課長と本音で意見をぶつけ合い、改善の方向性を見出していったことです。

**Q** 現在の携わっている業務について  
教えてください。

現在は、行政評価局の調査官として、室員が調査の取りまとめで行き詰っている時や新たなテーマ選びで苦慮している時などに、共に考え、方向性を示す役割を担っています。そういった時に、室員からは「合田さんは、なぜそんなにいつも楽しそうに仕事ができるのですか？」と聞かれることがあります。それは…自分が常に世の中を変えられる可能性を追いかけているからなのかもしれません。やらされ仕事ほどつまらないものはないのですが、我が局の仕事は、自分がおかしいと素直に感じたことを変えられること。楽しくならないわけじゃないですね。

**Q** 行政評価・管理分野での  
総務省の役割を教えてください。

皆さんは、行政評価にどういったイメージを持っていますか？各省の仕事のやり方を点検し、相手の嫌がることをズケズケと指摘する、いわば粗探しをする役所だと思われていませんか？正直これまでの行政評価局は、そのような存在だと思われていた一面はあります。しかし、今、行政評価局では、各省が政策を進めていく上で、自身では未だ気づき得ない課題があるのではないか？という考え方に立ち、政策をより有効に機能させるためには、何が足りないのかという視点で、政策の目詰まりを発見していくことが役割として求められています。

**Q** 行政評価・管理分野での  
やりがいについて教えてください。

行政評価を行う際に、何か「モノサシ」があればよいのですが、最近では、そういったものがいないために現場が困っている場合が多いです。また、「モノサシ」どおりに物事を進めようとする、それが狂っていることもあります。そのような場合に、自分だったらどうするかといった視点が大事になります。よく行政評価は、国民目線で！と言われることがありますが、私は、この国民目線こそが自分自身であって、自分なりの「モノサシ」ではないかと考えており、その「モノサシ」により行政を変えられることが、私のやりがいにつながっています。

**Q** 受験者へのメッセージをお願いします。

利害関係者の思惑が複雑に絡み合い、何が正解かも分からない現代においては、今後の行政の進むべき道やあり方を考える上で、皆さんが学生時代に習った知識や経験があまり役に立たないかもしれません。このため、ルールどおりに決められたことを着実にやり遂げるのが公務員の仕事であるといったイメージは、総務省に入ると、いい意味で裏切られることになります。そんな我が省には、(私も含めて)役人らしからぬ役人が大勢揃っており、それぞれの持つ価値判断や感性が試されます。ぜひ我々と一緒に、あなたの「正しい」を実現しましょう！



室員との打ち合わせの一コマ

### CAREER PATH

#### 1996～2000年

総務庁入庁～長崎行政監察事務所  
地方監察官付(係員級)

当時の厳しい先輩から、行政評価の「いろは」を手ほどき。この時代に、現場行政の重みを強く実感

#### 2007～2008年

総務省行政評価局評価監視官  
(厚生労働等担当)  
評価監視調査官(係長級)

「年金記録問題検証委員会」において、「宙に浮いた5000万件」の実態解明に明け暮れた日々

#### 2009～2011年

総務省行政管理局査定(農林水産省担当)  
主査(係長級)

初めての機構・定員担当として、農水省のあるべき姿を模索していた日々。単に削るだけではダメなことを痛感

#### 2013～2014年

内閣官房行政改革推進本部事務局主査  
(係長級)

「国・行政のあり方に関する懇談会」において、新進気鋭の有識者とこの国の「かたち」を議論していた日々

#### 2015～2017年

総務省行政評価局評価監視官  
(農林水産、環境、防衛担当)  
評価監視調査官(補佐級)

班長として、初めて「森林の管理活用」の調査設計から結果の取りまとめに至るまでの一連のプロセスを担当

#### 2020～2022年

内閣官房内閣人事局査定  
(農林水産省、公正取引委員会担当)  
参事官補佐

着任早々、農水省の組織再編(局の新設など)の議論が勃発し、実現に向けて関係者間で奔走していた日々

#### 2023年～現職

総務省行政評価局評価監視官  
(農林水産、防衛担当)調査官

調査着手前から世間の関心の高かった「墓地行政」の取りまとめを指揮し、なんとか秋の彼岸までに公表が完了